

第1回キャリア教育研究部研修会 報告書

1 講話「今、なぜキャリア教育か！」

～これからのキャリア教育をどのように推進していくか～

佐藤小 松下 欣美 校長

【今、なぜキャリア教育なのか】

TIMSS 調査結果によると、日本の教育は学びに対する興味関心が薄く、将来との関連性がみえない学びであり、受験が終わると共に知識が抜け落ちてしまう教育となってしまう傾向が分かる。そういった状況を打破しようとキャリア教育は推進され始め、浜松市では平成29年より周知され始めた。学習指導要領総則編では、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。」とある。第4次計画においても、基本理念が「描く夢や未来の実現」であり、目指す子供の姿は「自分らしさを大切にすること」「他者と協働し、主体的に行動できること」「自己調整をしながら、粘り強く取り組むこと」とあり、キャリア教育の重要性がうかがえる。

【キャリア教育の推進に向けて】

- ・ 意図的、計画的な指導を行うために、全体計画や年間指導計画を作成し、見直しをしていく。子供の実態を把握し、どんな力を育てたいか、すべての教員が共通理解することで、学校教育目標の具現化をしていく。特別活動を要とし、教育活動全体を通して実践していく。キャリアAの学習は年間5～10単元ほどでよい。

年間指導計画を作成するうえで注意することは、キャリア教育で育てたい力と教科の目標の重なりが大きいかを考えることである。教科のねらいを最優先し、キャリアの目標を狙いすぎて、教科のねらいがずれてしまうことがないように注意する。教科の目標との重なりが大きければ、教科の学びそのものでキャリアの力は育っていく。

- ・ オリエンテーション（全校・学年・学級）や教科ガイダンス（中学校）を実施し、育てたいキャリアの力や、その教科とキャリアの結び付き（将来や社会とのつながり）を伝える。

- ・ キャリアプレートの掲示

プレートを掲示するかどうかではなく、子供がキャリアの力を自覚できているかどうか大切である。キャリアパスポート、キャリアカウンセリング（日々の声かけ、対話等）を活用していく。

【まとめ】

自校の実態をふまえ、今ある活動をキャリアの視点で考え、指導していく。学年主任、研修主任、教務主任等を巻き込み、自分からキャリア教育推進のために発信していく。

- ・ 子供の実態の把握、育てたい力を明確にする
- ・ 全教育活動を通じた実践
- ・ 意図的、計画的な実践
- ・ 教科のねらいが優先

【参加者の様子】

講話の中で紹介される各校の取組の状況を熱心に聞き、メモを取る姿が見られ、各校の実践に活かそうという意欲を持たれた方が多い様子だった。